

第 60 回 EASD 参加レポート － 若手の視点から －

穂積 かおり 会員

(神戸大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌内科)



1. 参加学会

60th Annual Meeting, European
Association for the Study of Diabetes



<https://www.easd.org/annual-meeting/easd-2024.html>

2024 年 9 月 10～13 日 マドリード(スペイン)

2. 参加の目的

- 学会での活動目標：
国外の最新の研究や情報を学ぶこと
- ブース担当としての役割：
ブースを訪れる方々への対応
- ブース担当としての期待事項：
国外の研究者や組織との情報交換を通じて、国際的なネットワークを広げること

3. 学会参加の体験

- 学会でのブース活動内容：
ブースには日本に興味を持つ方が多く、年次集会への参加方法や JDS に関する質問が多く寄せられました。研究や雑誌に関する情報提供も行いました。
- 参加前の準備：
事務局の方にいただいた資料を拝読させていただきました。
- 特に印象に残ったセッションや研究発表：
骨格筋関連のセッション(自分の研究テーマ関連)
- 海外参加者との交流やネットワーキングの様子：
セッション終了後も追加の質問や意見交換をしている場面が多いように思いました。
- ブースを訪れた方々との会話内容やディスカッションのポイント：
職種によってブースに求める情報が異なるため、JDS の概要、発行している雑誌、年次学術集会の詳細について、若手医師スタッフも含めて迅速に提供できるよう準備しておくことの重要性を感じました。



4. 学んだこと・成果

- 学会で得られた新しい知見：

日本未導入の最新デバイス(CGM やポンプ)、weekly インスリンの情報

- 今後の研究に活かそうなこと:

多くの発表がヒトのデータに基づいていたため、自分の研究も臨床研究の領域に広げ、より実用的な知見を得られるよう努力したいと感じました。

- ブース担当を通じて感じた JDS のプレゼンス向上のための改善点:

年次学術集会において、英語セッションの充実や同時翻訳機能の導入など、海外研究者が参加しやすい環境を整えることが必要だと感じました。これにより、JDS の国際的なプレゼンス向上や、さらなる情報交換の場が広がることが期待されると思いました。

5. 今後の抱負

- 今後の研究や学会活動に対する意欲:

日本に興味を持ってくださる方々が多いことを実感したため、今後も研究成果を積極的に発信し、JDS の国際的な存在感を高めるために尽力したいと考えています。

- 次世代へのアドバイスや提案:

積極的に自身の研究を発信し、国際的な学会での経験を活かして、さらなる学術的交流を目指してほしいと思います。

6. その他

- 感想:

今回 EASD に初めて参加し、改めて JDS の年次学術集会の内容のレベルの高さは、世界に誇れるものだと感じました。一方で、日本ではヒトのサンプルや臨床研究の実施には高いハードルがあるため、今後はこれらの課題に対しても、学術的な発展を支援する体制が整えられればと感じました。

近年、研究費の削減や旅費・参加費の高騰により、留学や海外学会への参加をためらう若手研究者が増えている中、今回の EASD に参加する貴重な機会をいただけたことに心から感謝しております。この経験を糧に、今後も自分含め、若手研究者が国際的な舞台で活躍できるよう、尽力してまいります。



第 60 回 EASD 参加レポート － 若手の視点から －

都野 貴寛 会員

(群馬大学生体調節研究所 代謝疾患医科学分野)

1. 参加学会

60th Annual Meeting, European
Association for the Study of Diabetes

<https://www.easd.org/annual-meeting/easd-2024.html>

2024 年 9 月 10～13 日 マドリード(スペイン)



2. 参加の目的

- 学会での活動目標：
日本糖尿病学会の活動内容をより多くの方に認識していただくこと。また自身の研究および臨床に活かせる、最新の科学的知見を得ること。
- ブース担当としての役割：
ブース来訪者に対し、日本糖尿病学会の活動や日本の糖尿病医療・研究について紹介すること。
- ブース担当としての期待事項：
ブース来訪者の、医学に関わる専門的な質問に対して、医師の立場から明確に回答し、より発展的な議論を行うこと。

3. 学会参加の体験

- 学会でのブース活動内容：
日本人の肥満率が低いにも関わらず、糖尿病患者が多い理由について、様々な来訪者より質問された。このほか、糖尿病性足病変の診療が日本ではどのようになされているか、health economist は日本でどのような役割を担っているかなど、多様な分野のスペシャリストの方々と議論させていただきました。
- 参加前の準備：
特別な準備は行いませんでした。
- 特に印象に残ったセッションや研究発表：
膵α細胞の生物学に関するセッション内、Patrick E. MacDonald らのグループからの、Patch-seq を用いた 1 型糖尿病における膵α細胞機能の変化の解析に関する発表が印象深かったです。
- 海外参加者との交流やネットワーキングの様子：
ブース来訪者はどの方も大変気さくに話しかけてくださいました。私のコミュニケーション能力では、新たな国際共同研究にまでは繋がられませんでした。そうした機会の得られる場であると感じました。



- ブースに訪れた方々との会話内容やディスカッションのポイント：
どの方も日本に大変興味を持っていらっしゃいました。世界と比較したときの日本の糖尿病学、という視点を持っていることが有意義な議論に繋がると感じます。

4. 学んだこと・成果

- 学会で得られた新しい知見：
インクレチン関連薬の開発が想像以上に加速していることを実感しました。
- 今後の研究に活かせること：
あるセッションで議論されていた細胞内シグナルについて、自身の実験モデルでも検討できると良いのではないかと感じました。
- ブース担当を通じて感じた JDS のプレゼンス向上のための改善点：
Diabetology International を比較的多くのブース来訪者が持ち帰られるように感じました。JDS を通じて日本で行われている研究を積極的に海外へ発信できると、JDS を世界に広めることに繋がるのではないかと感じました。

5. 今後の抱負

- 今後の研究や学会活動に対する意欲：
今回、ブース担当の合間に様々なセッションを聴講することができました。世界には興味深いテーマが溢れており、大変良い刺激になりました。まずは私自身の現在進めている研究テーマを形にして、さらに多くの研究に発展させていきたいと思っています。
- 次世代へのアドバイスや提案：
海外の学会はとても規模が大きく、興味深いテーマに触れる非常に良い機会です。今回私が JDS にご支援いただいたように、こうした機会を利用して海外の学会に参加できると、それだけで良い経験になりますので、是非積極的に参加していただけたらと思います。

6. その他

- 感想：
私の海外での学会参加経験は昨年 EASD で発表させていただいたのみで、恥ずかしながらプライベートを含めてこれが初めての海外渡航でした。二度目の海外渡航となった今回の EASD 参加は、国際学会だからこそ得られる刺激に溢れていました。またこれまでの学会参加を思い返すと、どうしても自身の専門分野に偏ってセッションを聴講してしまっておりましたが、今回いただいた JDS ブース担当としてのお仕事は、様々な国の幅広い分野の専門家との交流の機会を私に与えてくれました。以前から海外留学に興味があった私としては、今回のお仕事を通じて留学への意欲がさらに高まりました。より多くの方がこうした機会を利用することができれば、国際的視野の涵養へと繋がり、JDS の更なる発展にも寄与するのではないかと感じました。今回の経験を糧として、自身の研究・臨床に一層励んで参りたいと存じます。支援してくださった糖尿病学会の理事長である植木先生をはじめとする諸先生方ならびに事務局の皆さまに、末筆ながら深謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



日本糖尿病学会 国際交流委員会

EASD2024 Associations' Village ブース出展報告書

作成日：2024 年 9 月 18 日

出張者：事務局 堀、金子

● スケジュール

出展先：60th Annual Meeting, European Association for the Study of Diabetes 2024, Madrid, Spain

設営日：2024 年 9 月 9 日（月）

公開日：2024 年 9 月 10 日（火）～13 日（金）9:00-18:00（最終日は 14:00 まで）

会 場：ブース番号 23, EASD Community Plaza, ホール 9

Presidential Tour : 9 月 12 日（木）15:00～



● 掲示物

ポスター	学会活動紹介（4 枚組） 第 4 次 5 か年計画抜粋 第 68 回年次学術集会
配布物	学会活動紹介リーフレット 第 4 次 5 か年計画リーフレット 第 68 回年次学術集会チラシ EASD/EFSD の共同事業紹介チラシ 英文誌チラシ 英文論文別刷り 3 種、見本本 英語 inquiry 用ビジネスカード (各約 50 部、全て英語版)
ノベルティ	DI クリアファイル（富士山柄）

● 担当者

事務局員 2 名、会員からの公募担当者 2 名

● ブース担当者の公募

若手会員の海外学会参加支援策として、ブース担当要員を糖尿病学会理事・監事の推薦募集を実施した。5 名の応募があり、以下の 2 名が選出された。糖尿病学会からの旅費の支援を行い、学会のブース駐在担当をしながら学会に参加した。

都野 貴寛会員

群馬大学生体調節研究所／横浜市立大学医学研究科 大学院生

穂積 かおり会員

神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科 博士研究員

● 報告

ブースについて

- ・メンバーブースはホール 9（企業展示、ポスター、スポットライトステージ、などのエリア）の一角に Community Plaza として設置され、計 36 団体のブースが設置された。
- ・本学会のブースは short oral session（ポスター発表）エリアの前に位置し、12 時～15 時の発表時間帯は人の出入りの多い位置にあった。



short oral session エリア



糖尿病学会ブース

展示・配布物への反応

- ・学会活動・日本の糖尿病の状況など General な情報をまとめた資料を作成し、メイン資料として質疑応答に使用した。
- ・日本の学会への参加に興味を示す方も多く、68 回年次学術集会のチラシをお持ち帰りになる方が多かった。
- ・EASD と本学会の関係性を説明するため、EASD との共同事業（シンポジウム「E-W Forum」と交換留学事業、EASD 会期中 9 月 12 日開催）の紹介チラシを作成・配布し、シンポジウムの広報をした。
- ・日本の研究を知りたいという方々に英文誌「Diabetology International」の別刷り・

チラシが有効であった。

来訪者について

- ・ 会期前半に全体を見て回る方が多いため、会期前半（1日目、2日目）はブース来訪者が比較的多く、後半（3日目、4日目）に進むにつれて落ち着いた。
- ・ 昨年同様、プログラムの合間（昼食・ポスター発表時間の12時～15時）が最も来訪者が多い印象であった。
- ・ 確認できた来訪者の国籍は下記の通り。

アフリカ	エジプト、モロッコ、アルジェリア
アジア	インド、インドネシア、中国、フィリピン、シンガポール、日本
ヨーロッパ	イギリス、ギリシャ、ジョージア、スペイン、スウェーデン、ハンガリー、フィンランド、ポルトガル、マケドニア、ルーマニア、ロシア、ベルギー、イタリア
北アメリカ	アメリカ、カナダ
南アメリカ	チリ、ブラジル、ウルグアイ、アルゼンチン
オセアニア	オーストラリア

ブース来訪者数（日別）

9月10日：15名
9月11日：18名
9月12日：15名
9月13日：6名

来訪者からの主な質問

【学会参加および会員について】

- ・ 日本で専門医になるための方法
- ・ 日本糖尿病学会の活動内容
- ・ 学会の会員数
- ・ 学会員の構成（医師・医師以外）
- ・ 日本糖尿病学会に参加する方法（会員になる必要があるか）
- ・ 日本の年次学術集会の参加者数、外国人参加者数
- ・ 年次学術集会に外国人は参加可能か

【糖尿病研究および臨床活動について】

- ・ 日本の人口と糖尿病患者数、1型と2型の割合

- ・糖尿病網膜症の診療方法
- ・日本の糖尿病診療におけるフットケア
- ・JDS との国際的な研究協力方法
- ・2 型糖尿病患者のために JDS が行っていること

【学会関連資料および出版物について】

- ・日本の患者会の資料はあるか
- ・英文誌 Diabetology International (DI) に関する全般 (DI とは何か／閲覧方法／内容・目次／論文は全て学会内で執筆しているのか等)

【日本の糖尿病全般について】

- ・日本での肥満人口
- ・日本の糖尿病患者の割合
- ・日本の医薬認可を取る方法、自社のテクノロジーを日本に紹介する方法

その他

- ・糖尿病学会会員にお立ち寄りいただくことが多々あった。他団体ではブースを内部来訪者の休憩場所や集合ポイントのように活用 (兼用) しているケースもあり、海外学会参加時の困りごとや緊急避難 (充電や休憩など) 先として、会員の交流場所にも兼用が期待できる。
- ・本年は会期最終日に企業展示が閉鎖されており、ホール自体の入場者が大きく減少した。滞在経費削減のため、今後は最終日の人員の縮小を検討する。
- ・過去にはノベルティを複数用意し来場者のアイキャッチにしていたが、都度製作経費が必要であることから、昨年より法被を 2 着作成し消耗品から再利用可能な備品に見直しをした。ブース担当者が着用することでノベルティと同等のアイキャッチ効果の向上がみられた。
- ・学会の活動紹介は事務局が行い、日本の糖尿病学の質問は公募したブース担当会員 (臨床研究・基礎研究の 2 名) が回答を行った。今後もブースにおいて、若手会員の活躍が期待できる。

今後に向けて

- ・EASD との共同事業に関する配布物を継続し、広報に努める。
- ・学会活動紹介資料は、用意した 50 部が 3 日目で配布終了したため、次年は増版が必要。
- ・年次学術集会参加への導線を強化する。地方都市開催の場合にはアクセス方法の記載もあるとよい。

- ・ 会員向けに学会ブースがあることの広報をし、糖尿病学会会員の方のための現地拠点のような役割へ広げていく。
- ・ 人員配置、滞在日程の見直しで滞在経費の最適化を図る。

以上